

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102962		
法人名	有限会社 徳藤		
事業所名	グループホーム マイ・ライフ		
所在地	岐阜市下西郷4-80-4		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102962&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれており、天気の良い日にはホームからの見晴らしも良く、散歩や庭に出て外気浴することが出来ます。地域の方が、ご自分の畑で採れた季節の野菜を持ってきてくださったりと交流の場も確保できています。
またご家族と利用者が出来るだけ多く関わりが出来るように、可能な方は一緒に外出や外食の支援をお願いしています。個々の生活スタイルに出来るだけ添えるように入浴の時間帯や食事の形状等をご本人の希望や状態に合わせて提供できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周囲は畑が広がり、自然豊かな環境で、利用者はゆったりと暮らしている。利用者の能力・体力に応じ、土いじりもできるよう、敷地内のホーム前を畑にする計画が進んでいる。職員は常に利用者の心に寄り添うよう支援をしており、誕生日のケーキ作りや普段のおやつ作りも一緒に行き、日常的なレクリエーションに楽しみを加えている。ホームのクリスマス会では、地域の子供達を招き、世代間を越えて、楽しく交流している。終末期に関しては、基本として医療行為を伴わない看取りを行う方針であるが、その都度、かかりつけ医、家族、職員とで話し合い、希望に応じた柔軟な支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に施設の理念ケアの思念を掲げ、スタッフがお互いに確認出来るように努めています。また新しい職員採用時にも理解をして頂けるように努めています。	理念は、「普通に暮らす大切さ」を掲げている。理念を玄関の目線に大きく明示し、全職員で共有している。家庭の延長としての暮らしができるように、利用者の思いに沿ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には継続して入っており、月に2回の回覧板は利用者と共にまわしています。また2ヶ月～3ヶ月に1度の頻度でマイライフの事についての取り組み等について回覧しています。	自治会員として、職員と利用者がゴミゼロ運動の清掃活動に参加している。近くにある特別支援学校からは、季節の花を日常的に購入している。回覧板を利用者と共に廻し、地域の一員として受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会には継続して入っており、月に2回の回覧板は利用者と共にまわしています。また2ヶ月～3ヶ月に1度の回数でマイライフの事についての取り組み等について回覧しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者の状況サービスの実際、行事等の取り組みについて、報告や話し合いの場を設ける努力をしています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回行い、自治会役員や民生委員・家族代表・地域包括支援センターが参加している。最近では、災害に対する心構えを話し合っている。会議での意見等は、今後の事業運営に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村への連携はこまめに取る様にしています。アドバイスを頂くこともあります。	行政へは、ホームの運営状況を定期的に報告している。運営推進会議に、行政担当者が欠席する場合もあるが、困難課題は、その都度相談し、アドバイスを受けている。	地域全体の福祉向上のために、事業者から積極的に情報を提供し、課題解決に向けた更なる関係づくりに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者、または他利用者に危険が及びそうな事以外は、玄関の施錠も含め身体拘束を行う事のないように、個々のケアに力を入れています。その人らしい生活が送れるように職員全員努めています。	身体拘束をしないケアを実践している。外部研修に参加した職員が、報告会を行い、拘束禁止の意義を共有している。言葉によする拘束がないように、全職員に徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、職員全員が研修に参加することにより高齢者虐待についての基礎知識を学ぶ機会を作りました。		

岐阜県 グループホームマイ・ライフ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、職員全員が研修に参加することにより成年後見制度についての基礎知識を学ぶ機会を作りました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんのこと、解約時にも分かりやすく説明できるように心がけ、緊急時対応の仕方についてもその都度納得できるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からの意見、要望、苦情等はしっかりと受け止め改善が出来るようにそれをまた運営に反映する努力をしています。	毎月のホーム便りと、個別の便りを家族に送り、意見を求めている。また、家族の訪問時や家族会の開催時にも聞き取っている。更衣や食事内容の改善についての要望があり、迅速に改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議を行い、意見・要望等を聴くことが出来るように機会作りは行っています。またそれ以外には管理と職員が1対1で話すことが出来る時間を設けています。	毎月、職員会議を行い、職員の意見を表出できる機会を作っている。ポータブルトイレの使用を夜間のみにする意見や、ケアの中での気づきなどの意見を交わしている。意見等は、より良いケアの向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトを柔軟に出来るようにその都度の意見を求めながら勤務してもらっています。努力している職員には給与水準の見直しは常に行っています。また希望休、公休、有給もしっかりと取ることが出来るよう整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修の案内には参加者を募り、積極的に研修に参加できる機会を設けています。また研修の内容は研修報告書として回覧しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修には積極的に参加してもらい、事業所紹介等をしてもらいネットワーク作りを行っています。また他の施設への見学等を職員全員が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住みなれている自宅などに足を運び、ご本人とご家族を含め面談に力を入れています。新しい環境に慣れて頂くために出来るだけ多くの情報を取り入れる事が出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から利用に至るまでは何度か電話連絡や足を運ぶように努めています。また都合に合わせて来所して頂くように極力お願いしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時から利用に至るまでは何度か電話連絡や足を運ぶように努めています。また都合に合わせて来所して頂くように極力お願いしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する利用者と共に個別援助ばかりでなく、色々な方との会話やコミュニケーションが持てる場を作れるように日々努力しています。なかなか難しい方は職員も含め多くの利用者に関われるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介助が必要な方もおりますが、度々来所して下さる家族の方とで一緒にお茶を飲んでいただいたり、食事の介助をお願いしたり、時には外出もお願いし、食事に行きたく機会作りを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来て頂けるような雰囲気作りはもちろんの事、外出先も以前住んでいた家の近くのお寺や喫茶店、神社などに出かける事が出来るようにしています。	遠方の親戚や元職場の人の来訪があり、希望に応じて、居室やリビングで過ごしてもらっている。また、訪問者と一緒に、近隣の喫茶店などへ外出している。懐かしい自宅近くの神社へ参拝に、職員とドライブを兼ねて出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員は把握していますので、上手に関われるように協力したり支え合ったりして頂けるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設のサービスが何らかの理由で終了してもご本人、ご家族が必要とする他施設の情報や医療機関の情報等は提供出来るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や行動、その他の関わりの中で、不満や要望等の把握に努め、困難な事情である時にはご家族に協力を求め、利用者にとって最善の方法を見つけ出せるように努めています。	日々の言動や、関わりの中で、思いや意向を把握している。個別シートに、新たな発見や気づきを記載し、職員間で共有している。困難な場合は、家族にも協力を求めている。思いは、その人らしい暮らし方や、余暇活動にも活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールを2種類に分け、必要なシートを使いこれまでの生活歴等の把握が出来るように職員全員が周知に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の介護の中で気づいた事や考えている方法等常に職員同士が周知出来るように伝達を行っています。その日にあった利用者の出来事等は常に申し送り等での口頭伝達、記録として残しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護度の変更時や、状態の変化が見られた時には職員会議を開くようにし、介護の方向性や意見等を聞き出し、再アセスメント等に努めています。それを計画作成者がまとめアセスメント様式にまとめており、介護計画書の作成に取り組んでいます。	職員会議や日々の申し送り時に介護計画について検討する場を設けている。介護計画は、本人・家族、かかりつけ医や看護師などの関係者と話し合っている。見直しは、6ヶ月毎や状態の変化に応じて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週1程度のペースで重要事項のまとめや気付いたことなど要約し業務日誌と共に保管しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歌が好きな方にカラオケのセットを購入したり、ドライブに行きたい方、入浴の好きな方、ニーズは人それぞれなので、その日の要望が出来るだけ活かされる様に対応するように努めています。		

岐阜県 グループホームマイ・ライフ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゴミゼロ運動や、お祭りなど出来るだけ参加できるように努力しています。またかかりつけの先生に依頼し来所して頂き懐メロを弾き語りがあります。その際も地域の方が来所出来るように連絡させていただきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとして締結している医療機関もありますが、契約の際にご本人とご家族にお話しし、以前からのかかりつけ医のままの方もおられます。定期的に他の医療機関に受診されている利用者もお見えになります。	ほぼ全員が、協力医を、かかりつけ医としている。月に2回、協力医の往診があり、利用者全員の体調を管理している。歯科は往診を受け、その他の病院や専門医の受診は、家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員との関係もとても良好です。情報の共有に努め、普段の健康管理や観察、適切な処置等の情報も得ています。また指示を頂き介護職員に出来る範疇の行為に対しても指導して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期に退院が出来るように入院先の主治医や担当看護師との連絡はこまめに行っています。時には様子を見に行くこともあります。また情報の提供を行う際はご家族と同伴し説明や情報の共有も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人とご家族に対し、先の事もお話しする機会を契約と同時に確認事項として説明させて頂いています。ただ入所時といざという時にはご家族やご本人の考え方も違ってきますので、その都度納得の出来る様に話し合いの場は常に設けます。	契約時に、重度化・終末期ケアについて丁寧に説明している。ホームでできる介護の範囲までとし、他施設へ移ることも含め検討している。重度化の進行に合わせ、その都度、かかりつけ医と家族との話し合いを重ね、納得の得られる支援をしている。	終末ケアをしない方針であっても、そこに至るまで様々なケースが考えられる。判断基準や対応手順をマニュアル化して整えることが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に素早く対処が出来るように実践も含め内部研修を行っています。また止血法等の処置の訓練を12月の半ばに消防署の方と一緒に行う予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の役割を明確にし、利用者が安全に避難できるように避難場所や地域の方との協力体制が築けるように努めています。	年に2回、消防署や自治会と避難訓練を行っている。運営推進会議内で消火器の実演を行ったり、自治会の回覧板で、住民に働きかけ、災害時の協力体制を築いている。飲料水や必要なものを備蓄し、災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライドや性格を尊重し、プライバシー確保の徹底を行っています。時には家族の様に接してみたり、空想の話しの中の人物になってみたり、その場で楽しむことが出来れば良いと考えます。	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを徹底している。入室では許可を得たり、トイレ誘導は、ささやくようにしている。職員と利用者の親しみのある関係を保ちながら、慣れ過ぎない配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個性を見極め、その個人が今日は何をしたいのか等の把握を発言や行動を観察したり言葉かけを行いながら最終的には自己決定が出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今食事を摂りたくないとか、昼からお風呂に入りたい、等という要望がもちろんありますので、一日のリズムが崩れない程度のペース作りは行っています。出来るだけ本人の気持ちに沿った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色、好んできている洋服などから話をし、買い物の際には職員はアドバイスはしますが、自己決定ができ、好きなようにおしゃれを楽しんで頂けるように支援します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼と、おやつ、夕食の献立をボードに書き、食事の前には必ずみんなで何がなんであるのか確認しながら食に関しての興味をなくさないように支援しています。ご飯つけ、汁物をつけたりおかずの刺下ごしらえ等の分担をしたりしています。	昼食と夕食は、利用者の好みを聞いて、調理している。野菜の下準備や盛り付けなど、本人の能力や好みに合わせて担っている。職員も介助しながら同じテーブルにつき、同じ食事をしている。見やすい献立表で、食べる楽しみが持てるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月に1回はカロリー計算をしています。また排泄の間隔や量等の確認と記録をし、便秘でないか、消化不良はないか等確認し合っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいの出来ない方に対しては洗口剤の使用や、毎食後は義歯を外して磨き残しが無いように職員が最終確認を行っています。また週に1回と少ないですが義歯洗浄剤の使用で除菌しています。		

岐阜県 グループホームマイ・ライフ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用を減らすことが困難な方も見えますが出来るだけトイレに行く時間は少し長く座って頂く事で便器内での排泄が出来る事もあります。夜が心配と言われた方には出来るだけ薄めのパットのみ使用させて頂く事もあります。	排泄チェック表で、パターンを把握し、できる限りトイレへの誘導を行っている。毎日の細かい確認と、水分補給や腹部のマッサージにより、排泄がスムーズになるような配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になるとどういった症状が出るのか、職員身を持って体験してきました。そういった兆候の方には介助しながら水分を積極的に取っていただいたり、いつでも飲むことができるように常に食卓にお茶を用意しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝一番に入りたい方、昼からゆっくり入りたい方など希望がありますので個々に沿って支援が出来るのではないかと思います。また介助の必要な方湯船につかりたいが不安がある方なども職員が1対1でお手伝い出来るようにしています。	入浴は、2日に1回行い、利用者の要望に沿って入浴できるようにしている。入浴のない日は、足湯を行い、気持ち良さと、暖かく眠れるように配慮している。車椅子の人には、シャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間等は特に設けていませんが朝が早かった方や眠りが浅いような方には少しでも休むことが出来るように声かけを行っています。また気温に合わせて風を取り入れたり、暖房をかけたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の方と話をする機会を設けていますので薬の変更時には特に用法の確認を必ず行い、それを職員に口頭や記録として申し送りの徹底をしています。また服用したことによってどのように変化があったかなども医師に伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの職業なども把握していますので例えば、保母さんであったら一緒に折り紙の工作をしたり、ロールピアノでの演奏をしていただいたりしています。大正琴もやってみえる方、写経したり、お経を詠んだりと様々です。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に会いたいと思われる方が大半ですので職員とも出かけていますが出来るだけご家族の方と一緒に出かける事が出来る様に連絡調整しています。受診介助もその一つです。	日常の散歩は、その日の天候に合わせて柔軟に行っている。食材の買い出しには利用者も同行している。年間行事として、桜の花見・紅葉狩り・バラ園見学・初詣など、幅広い外出機会を持ち、家族と協力して安心な外出を支援している。	

岐阜県 グループホームマイ・ライフ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関してトラブルが無いように職員が管理はしていますが、外出先ではご本人の財布にお金を入れて、買い物の際にはそこから出せるようにしています。またお小遣いの残高もお話しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族がかけてもご都合が良い、あるいはその時間なら家にいるよといった事をあらかじめお聞きし、いつでも電話がかけられる様にお話しています。また季節のハガキ等自分で書いてポストに入れていただくようにしています。(年賀状や暑中見舞い等)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日には出来るだけ窓を開け、自然の空気を取り込みます。冷暖房等に慣れてしまわないように気をつけています。周りには自然がたくさんありますのでベンチでの日光浴等は積極的に出来るようにしています。	リビングは台所に面し、昼食後にはソファでくつろいだり、貼り絵を制作している。向かい合う居室の間の廊下には手すりを設置し、安心できる。吹き抜けの天井は開放感があり、自然の空気を取り込んでいる。冷暖房を適温に調節し、心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす時間も大切にしていますが、それによって生活のリズムが崩れたりしないように適度な声かけはさせていただくこともあります。また気の合う方同士が互いの居室へ行き来出来る様にも支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人居室に置いているものが皆さん違います。使いなれたタンスや布団等持ち込んで頂き、家庭にいるようなまた安心して過ごすことが出来るように家具等の移動の際は一緒に行ったり購入物もご本人の好きな物を出るだけ取り入れるようにしています。	居室のドアには、個性的な名札が貼られ、部屋の中はこざっぱりと、本人が使いやすい家具の配置となっている。家族の写真、趣味の習字道具や利用者の作品を飾り、自宅にいるような雰囲気作りを工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色々な場所に貼り紙をしており、目的がひと目でわかるようにしています。また各居室には入口に名前を貼り、認識出来る工夫をしています。		